

【令和4年度 授業改善推進プラン】

板橋区立板橋第四小学校

<p>【1年】</p>	<p>【視点1 問題解決型・探究型の授業】 ○授業の始めに、本時のめあてを明確にし、終わりにまとめと振り返りをする事で、児童が主体的に学習し、学習内容を確実に身に付けさせる。 ○興味関心をもって児童が自ら考えたいと思える課題を設定して、取り組めるようにする。 ○児童が課題をしっかりと理解し、既習事項である「知識・技能、思考・判断・表現」を使って、自分の力で解決できるような学習を授業で取り入れる。</p> <p>【視点2 協働学習の導入】 ○共有したくなるような課題を設定し、自分の考えをもつための情報と時間を十分に確保する。 ○「読み解く力」を育成しながら、ペア対話や一問一答型の学習を行い思考のバージョンアップにつなげる。 ○ワークシート、カード、付箋や一人一台端末などの ICT 機器やデジタル教科書などを活用して、共に学び合い、話し合いがしやすいようにする。</p> <p>【視点3 指導と評価と支援の一体化】 ○児童のノート、発言やつぶやき等から、本時のめあてに対して、児童の学習達成状況を把握し、個に応じた支援を行っていく。 ○授業の終わりには、本時のめあてに対して分かったことや気付いたこと等を振り返って自分の言葉で書く活動を取り入れ、児童、教師それぞれの評価や次の学習へのつながりへ活用する。</p>
<p>【2年】</p>	<p>【視点1 問題解決型・探究型の授業】 ○授業の始めに、本時のめあてを明確にし、終わりにまとめと振り返りをする事で、児童が主体的に学習し、学習内容を確実に身に付けさせる。 ○児童の興味・関心を引き出したり、理解を深めたりするために、思考ツールと一人一台端末や書画カメラ、電子黒板等の ICT 機器、デジタル教科書などを一層活用した授業を進める。 ○問題解決型の授業展開とともに、その過程や考え方をノートなどに「書く」ことによって、思考を整理し、表現する力をつける。 ○教科書や資料、図や絵を自分で読み取り、読み取ったことを基にして分かったことや考えたことを相手に伝える活動を繰り返し、読み解く力を育てる。</p> <p>【視点2 協働学習の導入】 ○各教科の授業において、感染症対策を十分に行いながら、ペアによるチーム学習、学級全体で、自分の考えを伝えたり、相手の多様な考えに触れたりする活動を多く取り入れ、児童が主体的に学び合えるようにする。このようなペア対話や一問一答型の学習によって、思考のバージョンアップへとつなげていく。 ○「意見を聞く、発表する、交換する」等の言語活動を重視し、授業に位置付ける。 ○ワークシート、カード、付箋や一人一台端末などの ICT 機器を活用し、共に学び合い、話し合いがしやすいようにする。</p> <p>【視点3 指導と評価と支援の一体化】 ○ノートやワークシート、児童の様子からつまづきを見取り、児童同士で学び合う活動や、思考ツールを複数用意するなど、個に応じた手だてを事前に考える。 ○授業の終わりには、本時のめあてに対して分かったことや気付いたこと等を振り返って自分の言葉で書く活動を取り入れ、児童、教師それぞれの評価を次の学習に生かす。</p>

<p style="text-align: center;">【3年】</p>	<p>【視点1 問題解決型・探究型の授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童自身が見通しをもって主体的に学習に取り組めるように、各教科等で板橋区授業スタンダードの「めあて、自力解決、集団解決、まとめ、振り返り」の学習の流れを明確にした授業を徹底する。 ○児童自身が主体的に学習するために、教育活動全体を通して「読み解く力」の育成を図る。 <p>【視点2 協働学習の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを広げたり深めたりするために、ペア対話やチーム学習を通して、全体で学び合う場面を意図的・計画的に設定する。学び合う視点を明確にして、ハンドサインを活用するなど、自分の考えと同じところや違うところに気を付けて聴く意識を高め、思考のバージョンアップにつながるようにする。 ○自分の考えを分かりやすく伝えるために、ワークシートや付箋、ホワイトボードなどの思考ツールを積極的に活用し、相手意識を大切にしたい表現力を伸ばしていく。 ○一人一台端末を積極的に活用し、学び合う手段としての情報活用能力の育成を図る。 <p>【視点3 指導と評価と支援の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ノートやワークシート等から児童の学習状況を的確に把握し、児童理解に徹し、個に応じた支援の工夫を図る。 ○学年間で一部教科担任制を行うことで、学年全体で児童の実態を把握したり、指導や支援の統一化を図ったりして、児童が安心して学習に取り組めるようにする。 ○少人数指導やチーム・ティーチングなどの指導形態を意図的に工夫しながら、個に応じた支援を行う。
<p style="text-align: center;">【4年】</p>	<p>【視点1 問題解決型・探究型の授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを明確にし、板橋区授業スタンダードの流れで各教科の学習を進める。特に「読み解く力」を高めるために、「問題把握、自力解決、学び合い、まとめ、振り返り」という流れで授業の組み立てを行い、一人一台端末や書画カメラ、電子黒板、デジタル教科書などのICT機器も効果的に活用して、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ○前時の学習や既習事項を生かして本時のめあてを引き出し、児童が興味をもって探究したい！と思える学習に取り組めるようにする。 <p>【視点2 協働学習の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをもち、ペア対話やチーム学習、一問一答型の学習などを通して友達の発言を聞いて新たな考えに触れたり、新しい考えを構築したりして、自分の考えを深め、さらに広げられるようにする。 ○各教科において、教科書や資料、友達の発言から読み取ったことを基に説明したり書いたりするなどの活動を通して、読み解く力を育てる。 <p>【視点3 指導と評価と支援の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年間で一部教科担任制を行うことで、学年全体で児童の実態を把握したり、指導や支援の統一化を図ったりして、児童が安心して学習に取り組めるようにする。 ○少人数指導やチーム・ティーチングなどの指導形態を意図的に工夫しながら、個に応じた支援を行う。

【5年】	<p>【視点1 問題解決型・探究型の授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを明確にし、板橋区授業スタンダードの「問題把握、自力解決、学び合い、まとめ、振り返り」という流れで各教科の学習を進め、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。また、めあてはアウトプットも含めたものに設定し、児童が学習の成果をめあてに沿って自分なりに発信できるようにする。そのための手段として、一人一台端末や書画カメラ、電子黒板、デジタル教科書などのICT機器を効果的に活用する。 ○基礎的読解力の6つの分類を意識して指導を展開し、各教科において教科書を中心に読み取ったことをノートやワークシートに書いたり、説明し合ったりするなどの表現活動を取り入れ、読み解く力の育成を図る。 ○児童がじっくりと考え、自分で課題を解決する時間を十分に確保する。 <p>【視点2 協働学習の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チーム学習の中で、友達と自分の考えを交流して、互いの考えのよさや共通点に気付き、よりよい考えを創り出す時間を確保する。チーム学習の形態を工夫したり、一人一台端末や付箋、ホワイトボードなどの思考ツールを活用する。 ○多様な考えに気付いたり、考えを深めたりするために、一人一台端末を効果的に活用する。 <p>【視点3 指導と評価と支援の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年間で一部教科担任制を行うことで、学年全体で児童の実態を把握したり、指導や支援の統一化を図ったりして、児童が安心して学習に取り組めるようにする。 ○少人数指導やティーム・ティーチングなどの指導形態を意図的に工夫しながら、個に応じた支援を行う。また算数においては、理解に時間を要する児童を意図的に少ない人数に設定し、より細かな支援が行えるようにする。
【6年】	<p>【視点1 問題解決型・探究型の授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを明確にし、板橋区授業スタンダードの「問題把握、自力解決、学び合い、まとめ、振り返り」という流れで各教科の学習を進め、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。また、めあてはアウトプットも含めたものに設定し、児童が学習の成果をめあてに沿って自分なりに発信できるようにする。そのための手段として、一人一台端末や書画カメラ、電子黒板、デジタル教科書などのICT機器を効果的に活用する。 ○探究型の学習を「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という一連の流れを繰り返すことで定着できるようにする。 ○児童の発言に対して、一問繋答を意識し、考えの理由や根拠を明確にして考えを深めている。また、一問繋答をすることで他の児童の考えにも意図的につなげられるようにする。 ○基礎的読解力の6つの分類を意識して指導を展開し、各教科において教科書を中心に読み取ったことをノートやワークシートに書いたり、説明し合ったりするなどの表現活動を取り入れ、読み解く力の育成を図る。 <p>【視点2 協働学習の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と自分の考えを交流して互いの考えのよさに気付き、よりよい考えを創り出す時間を確保する。また、教師や児童相互、教材との関わりの中で、自分を表現する力を身に付けるようにする。 ○「対話」の目的（①合意形成②共有化③情報収集④新たな考えの創造）を明確にして必要に応じて授業を展開し、「聞く力」「伝える力」「つなげる力」の育成を目指す。 ○タブレットや電子黒板を活用し、教室内の授業や他地域との交流学习において児童相互による意見交換、発表や話し合いを行う。複数の意見や考えを議論して整理する時間を確保する。 <p>【視点3 指導と評価と支援の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年間で一部教科担任制を行うことで、学年全体で児童の実態を把握したり、指導や支援の統一化を図ったりして、児童が安心して学習に取り組めるようにする。 ○少人数指導やティーム・ティーチングなどの指導形態を意図的に工夫しながら、個に応じた支援を行う。 ○学習内容が整理されていたり、ねらいや振り返りが確実に書かれていたりするノート作りを推進する。 ○学習課題を一人一台端末で発信したり、回収したりすることで個々の評価を行いやすくする。また、一人一台端末で個々の評価を集約することで系統的に把握し、指導に生かすことができるようにする。

<p style="text-align: center;">【音楽】</p>	<p>【視点1 問題解決型・探究型の授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の探究な意欲を高めるために、課題設定の内容を充実させる。 ○一人ひとりの思考や判断を児童自身が分かるようにワークシートや学習形態を工夫する。 ○楽譜で示された記号や楽語などの情報を正確に読み取り、それらを関連付けて、より豊かな音楽表現を工夫、追究させる指導を重視する。(読み解く力の育成) ○一人一台端末のデジタル楽器の演奏や作曲アプリなどを活用し、様々な分野に興味をもたせる。 <p>【視点2 協働学習の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の授業において学習の流れを定着させ、協働的に学習に取り組む場面を事前に伝え、45分間の学習の中で見通しをもたせて学習や活動に取り組む。 ○ICT機器を活用することで、コロナ禍であっても児童がお互いの意見を交流できるようにし、一人一台端末のオクリンク等を活用し、クラス全体で考えを統合的、発展的に捉えられるようにする。 <p>【視点3 指導と評価と支援の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の活動を観察し、一人ひとりの個性や発達段階に応じた教師の声かけや、実際に演奏を行って聴かせる、などの支援を各学習過程で適切に行う。
<p style="text-align: center;">【図工】</p>	<p>【視点1 問題解決型・探究型の授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の主体的な意欲を高めるために、題材設定や用具・道具の活用などの内容を充実させたり、一人一台端末や書画カメラなどのICT機器を活用させたりする。 ○思考ツールや一人一台端末のオクリンク等を活用して考えや思いを広げたり、友達の考えを共有したりして相互理解を深める。 ○作品の制作過程や完成後にはペアやグループでの鑑賞の授業を通して、自分や友達の作品の感想を書いたり、説明し合ったりする言語活動を取り入れ、読み解く力の育成を図る。 <p>【視点2 協働学習の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○制作過程を大事にしながら、互いの思いや表現の工夫が友達に伝わる鑑賞や発表などの活動を取り入れる。 ○各学年の授業において活動の流れの定着化を図り、制作以外にも準備や片付けなど協働的に取り組む活動を毎回行う。また、90分間の学習の中で見通しをもたせて、学習や活動に取り組めるようにする。 <p>【視点3 指導と評価と支援の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の評価において、観点ごとのポイントを踏まえた内容のまとめりごとの評価基準を作成する。それを基に児童の活動時の観察や対話、児童自身が一人一台端末を活用した記録や教師の記録等によって指導や支援、評価に取り組むようにする。 ○児童が活動の振り返りを図工カードに記入したり、一人一台端末で記録したりする活動を取り入れることで次の学習へのつなげるようにする。

【算数】	<p>【視点1 問題解決型・探究型の授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童にとって身近な問題場面を取り入れ、必要感のある課題を設定するなどして、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ○本時のめあてを明確にし、板橋区授業スタンダードの「問題把握、自力解決、学び合い、まとめ、振り返り」という流れで学習を進め、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。また、めあてはアウトプットも含めたものに設定し、児童が学習の成果をめあてに沿って自分なりに発信できるようにする。そのための手段として、一人一台端末や書画カメラ、電子黒板、デジタル教科書などのICT機器を効果的に活用する。 ○情報を正確に読み取って解決し、その解決過程を統合的・発展的に考えて振り返り、問題解決の過程や結果を目的に応じて図や式、表、グラフなどを用いて数学的に表現し、伝え合う力を身に付けることができるように指導する。(読み解く力の育成) ○児童の興味・関心を引き出したり、理解を深めたりするために、一人一台端末や書画カメラ、ICT機器などを活用した授業を進める。 <p>【視点2 協働学習の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをもち、表現できるようにするために、めあてを確実に把握して自力解決に取り組めるようにするとともに、図、式、言葉等を関連付けて表現できるようにさせ、多様な考え方に触れさせる。 ○児童の発言に対して、問い返したり、児童の考えをつなげながらクラス全体で考えを統合的、発展的に捉えられるようにする。 <p>【視点3 指導と評価と支援の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のめあてを板書で明示し、児童がめあてに沿って学習ができているかを机間指導する。また、学習の中で振り返りを書く時間を確保し、思考のバージョンアップが見られる振り返りを取り上げ、価値づける。 ○座席表等を用いて記録に残すことで、児童の考えやつまづきなどを把握し、次時への指導と評価に生かす。
【体育】	<p>【視点1 問題解決型・探究型の授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組み、考察するとともに学習を振り返り、学習課題を修正したり新たな課題設定をしたりする。 ○単元を通して、自己やチームの能力に適した学習課題を見付け、解決に向かって学習に取り組む、その状況を振り返り、学習課題を修正したり新たな学習課題を見付けたりすることができるようにする。 <p>【視点2 協働学習の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動や健康についての学習課題の解決に向けて、児童が他者との対話を通して自己の思考を広げたり深めたりする。課題解決的な学習の過程で、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養うことができるようにする。 ○他者とは、共に学ぶ仲間だけでなく、教師や保護者等も含めた総称であり、他者からの意見をもとにして、自己の考えを修正したり新たな発見につなげたりすることができるようにする。 ○ICT機器を活用して児童がお互いの技や考え等を見合ったり伝え合ったりして、関心・意欲を効果的に高めるようにする。 <p>【視点3 指導と評価と支援の一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の一連の課題解決的な学習の中で、教師の適切な助言や評価によって児童が進んで学習課題を設定したり修正したりできるようにする。 ○学習課題の設定→学習課題の解決→自己評価という一連の学習を通して学びの深まりにつなげる。教師による積極的な言葉かけや児童の更なる学習意欲の向上につながるような評価を行う。

【視点1 問題解決型・探究型の授業】

- 中学年では、自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点、既習内容、生活経験を基に、問題を見いだしたり、根拠のある予想や仮説を発見したりして、表現できるようにする。
- 高学年では、自然の事物・現象について追究する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想したり、より妥当な考えをつくりだしたりして表現できるようにする。
- 全学年を通じて実験結果や考察、結論の発表を基に話し合いを行い、問題を解決し科学的概念を習得していく。

【視点2 協働学習の導入】

- チーム学習によって、科学的な思考力等の個々の差があっても、メンバー全員がそれぞれの実験に対する説明に触れることによって、様々な考察があることを知り、見方・考え方の質を高め、実証性、再現性、客観性を認識できるようにする。
- 知識のインプットだけに終わらず、チームでICT機器を活用しながら問題に対して話し合いを重ねたり、練り上げたりしながら思考のバージョンアップを図る。
- チームによる発表を繰り返し指導し、学習の中で習慣化させることで児童の科学的な思考力を向上させる。

【視点3 指導と評価と支援の一体化】

- 単元における児童の学習状況を捉えながら、適切な手だてを講じて授業を行う。
- 学期や年間を通して、児童一人ひとりにどんな資質・能力を育成していくかを長期的な視点で捉えていく。
- 観察や実験時の記録などから児童の学習状況を把握し、特に「努力を要する」状況と考えられる児童には確実に習得できるように指導し、個々の児童の指導の補完を行う。
- 「主体的に学習に取り組む態度」として、学習したことを他の学習や生活に生かそうとする態度を育てていく。授業の終末に振り返り活動を行い、学習したことを生かしてこれまでの学習と関係付けながら、児童が実感を伴った理解ができるようにしていく。